the 20th anniversary

早春の会合唱団
第6回演奏会

2014.5.11 sun 16:00

めぐろパーシモンホール大ホール

演奏会に寄せて

顧問　織田久男

創立２０周年！よくぞ続いたものだと言うのが率直な感想です。
一口に２０年と言いますが世の中は大きく動いて、１４人もの総理大臣が交代し、地下鉄サリン事件、経験した事のない阪神・淡路と、東日本の２つの大震災、原発の爆発などなど、災害や事件、事故に遭遇しました。

早春の会の会員の中には亡くなった人、10数年間、今も病床に寝たきりの人、また、原発事故で避難生活を余儀なくさせられている人がいます。合唱団員も数人を残してみな還暦を過ぎてしまい、大方の人は親を介護する年回りになりました。さらに自身の体にも何かとトラブルを抱えている人が多く、若い頃のような無理がきかないのが現状です。
そんな中、今日のコンサートに向けて、皆さん本当によく頑張りました。今日はその努力の成果を十分に発揮して、精一杯の良い演奏を聴かせてくれる事を期待します。

今日のプログラムの前半は、現在、合唱団が取り組んでいる曲目ですが、なかでもオペラの合唱曲は、私たちの合唱団としては初めて取り上げるものです。

後半の思い出の曲と言うのは、1曲を除き合唱団の母体である目黒高校音楽部時代に歌った曲で、当然の事ですが、個々の団員が高校時代に全ての曲を歌ったわけではありません。
解説にありますように、あくまで合唱団の歴史の中の思い出の曲というわけです。
現在の団員がどんなふうな演奏を聴かせてくれるのか、私としても楽しみです。

最後になって恐縮ですが、本日はご多忙のところを私たちの演奏会にお運びいただきまして、本当に有難うございます。心からのお礼を申し上げて、私のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

団長　平部正和

本日は貴重な休日、また母の日の日曜日にもかかわらず私たちのコンサートにお運びいただき誠にありがとうございます。

私たちは都立目黒高校時代に音楽部顧問の織田久男先生から音楽の素晴らしさを学びました。卒業後しばらくして「また心揺さぶる音楽を演奏したい」と集まった仲間で合唱団を立ち上げ、早や20年が経ちました。振り返ればその間毎週土曜日に約1000回の練習を重ねてきたことになります。ここまで継続した意欲の源はやはり皆で鳥肌が立つ程の感動を味わいたい、そしてその感動を聴いて下さる方にも届けたいという熱い思いです。

本日のコンサート会場は念願のめぐろパーシモンホール の大ホールです。
ご来場いただいた皆様に感謝の気持ちを込め、このホールいっぱいに私たちの音楽を響かせたいと思います。最後までごゆっくりとお楽しみください。

Program

混声合唱とピアノのための組曲

「夢の意味」　上田真樹/作曲　林　望/詩

1. 朝あけに
2. 川沿いの道にて
3. 歩いて
4. 夢の意味
5. 夢の名残

指揮　玉置清明
ピアノ　仲谷智子

「歌劇」タンホイザーより「大行進曲」　R.ワーグナー/作曲　中山知子/訳詞　安藤由布樹/編曲

「歌劇」カヴァレリア・ルスティカーナより「オレンジの花は香り」　マスカーニ/作曲

「歌劇」道化師より「早く急いで行こうよ」　レオンカヴァルロ/作曲

「歌劇」椿姫より「乾杯の歌」　ヴェルディ/作曲

ソロ　橋本弦法/松本久美子
指揮　安藤由布樹
ピアノ　米倉邦子

intermission

「大いなる樫の木に」　清水　脩/作曲　野上　彰/作詞

「さよなら」　南　弘明/作曲　阪田寛夫/作詞

「落葉松」　小林秀雄/作曲　野上　彰/作詞

指揮　井上　実
ピアノ　渡邊淑子/仲谷智子

「川」　髙田三郎/作曲　高野喜久雄/作詞

「道」　三善　晃/作曲　伊藤海彦/作詞

「火の山」　清水　脩/作曲　薮田義雄/作詞

美しく碧きドナウ　J.シュトラウス/作曲

指揮　玉置清明
ピアノ　仲谷智子/米倉邦子

Program Notes

「夢の意味」　玉置清明

なんと美しく味わい深い音楽だろう。人生の謎が、こんなにも詩と音に投影され得るとは！そして、なんと演奏の難しい曲である事か！

詩の言葉のニュアンスを精密に伝えるべく密度濃く選ばれたテンション和音〈ドミソなのにレラシやファ＃などが同時に鳴っている和音（実はとても柔らく響く）〉と、揺らぎ続ける調性感覚〈小節毎にあれ？っと意外な転調をして別の場所や時間に連れて行かれてしまう感じ〉が醸し出す、夢とうつつの心地良い曖昧さ。回想と夢想と現実が交錯し、無邪気と憔悴と迷いと納得と平安（詩と音の世界に及ばない言葉でしか書けないが）とが交替しながら、人が生きる大きな円環の旅のように組曲は進み、終結しない...。
居ても立ってもいられないような共感が私自身の中に波打ち、そして、命をさらに大切に味わいながら生きていこうとあらためて思う。

しかしそれにしても！　この曲の演奏は、私たちにとってあまりに沢山の課題と壁へのチャレンジの継続でした。臨時記号だらけの楽譜の音取り、経験したことのない和音の重なり、大きな跳躍音程、そして何よりソプラノの高音と透明な響きと正しいピッチ。いずれもこの曲の魅力の実現を左右する難題です。コンサートマスターの松本さんを中心に、発声を基本から作り直す根気強い練習を繰り返してきた団員諸氏の積み重ねが実を結ぶよう、願ってやみません。年輪と努力に裏打ちされた「早春の会」ならではの『夢の意味』が、皆様の心に響きますように！

「オペラ合唱曲」　安藤由布樹

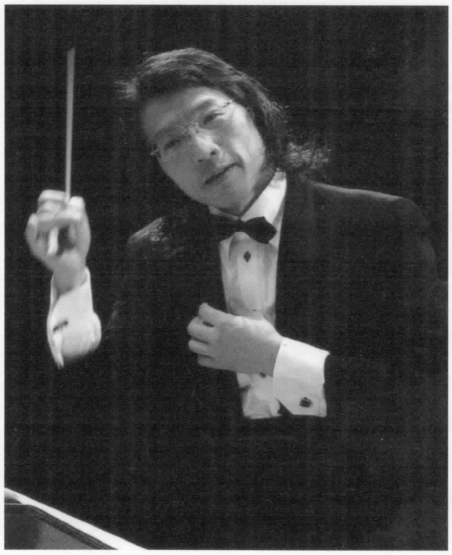
今回のオペラプログラムの４曲は、とても意味深い選曲になっています。
まず、ワーグナーとヴェルディは、昨年、生誕200年を記念して世界中で賑わった二大オペラ作曲家です。しかもワーグナーはドイツオペラ、北の帝王。ヴェルディはイタリアオペラ、南の帝王です。両作曲家のプログラム間に挟まれたレオンカヴァルロとマスカーニは、ヴェルディのかなり後輩ですが、イタリアの写実主義オペラ、すなわち“ヴェリズモ・オペラ”の左大臣と右大臣です。

さて、この４人のオペラ作曲家たちが織り成す絵巻とは…。
ワーグナーの『タンホイザー』は中世ドイツを舞台に、領主の城内に集まった吟遊詩人の騎士たちが、「ここでは、永遠の平和と歓びを歌え」と、みなぎる生命力を謳歌し、「愛の本質」について歌合戦をくり広げてゆきます。
“田舎の騎士道”の意味を持つマスカーニの『カヴァレリア・ルスティカーナ』は、日本ならば“武士道”といったところ。シチリアの大自然を背景に、惚れた、嫉んだ、憎んだ、殺した…と、三角関係が引き起こす人間ドラマは、意外と身近な話題であったりします、これが“ヴェリズモ・オペラ”。
三角関係どころか四角関係の泥沼に陥るのがレオンカヴァルロの『道化師』。そもそもピエロというのは人間の悲しさの象徴。過去のしがらみが現在に残す男女の傷痕を知るよしもない観衆が、笑いを求めて、サーカスの開幕を待ちわびながら浮かれはしゃぐのです。

デュマ原作の戯曲『椿姫』は、ヴェルディのオペラでは「道を踏み外した女（＝トラヴィアータ）」と題されています。世間知らずのお坊ちゃまアルフレッド君が、夜の世界に生きる高級娼婦ヴィオレッタに、真剣に求愛する…、ここからすでにありえないことなのですが、愛は遊びでしかない娼婦が真剣な愛に目覚めた時に、悲劇が始まる…。このあたりに「道を踏み外した」の本当の意味を解く鍵があるわけですが、　…そもそも高級娼婦の何が「高級」なの？近代フランス・イタリア史に登場する歴史の華“高級娼婦”とは、どういう立場の女性だったのか。これを探究してゆくと、ヨーロッパの本当の歴史が見えてきますよ…！

「思い出の曲から」

『大いなる樫の木に』
早春の会合唱団の母体となる都立目黒高校音楽部は、「より次元の高い音楽を」という高い理想を掲げて、昭和４０年に新たに発足した。この曲は発足の翌年、試しに初めてNHK全国学校音楽コンクール（以下Ｎコン）にエントリーした時の課題曲である。地区予選で２位だった。
『さよなら』
この曲はさらにその翌年、発足３年目に参加した昭和４２年度Ｎコンの課題曲である。
この時全国優勝を果たした。(参加校７６７校)
『落葉松』
音楽部の創始者で指導者だった織田久男先生が転任した事で、昭和４６年度をもって音楽部は７年間の活動を閉じた。そして平成５年、音楽部に在籍したＯＢ、ＯＧによって、新たに早春の会合唱団が設立された。この曲は発足２年目に、初めて都民合唱コンクールに参加して優勝した時の曲である。審査員の１人だった作曲者の小林秀雄氏はこの時の演奏を大変喜ばれて、後に、合唱団の練習場にわざわざ足を運ばれて自らこの組曲全曲の指導をされた。
『川』
この曲は昭和４３年度のＮコンに参加した時の自由曲である。
残念ながら地区本選で２位だったが、その時の審査員の中の２人から、１人は電話で、１人は手紙で、それぞれ「１位でなかった事を残念に思う」という内容のコメントがあった。
なおこの時の放送を聴いて感動した地方の学校から、この曲の録音テープを欲しいという申し出もあった。
『道』
これは三善晃が初めてＮコンの課題曲のために書いた、課題曲の中の傑作である。目黒高校の演奏を聴いて感動された作曲者から、わざわざ自筆のお褒めの手紙が届いた。その中に書かれてあった「作曲者として嬉しい」と言う言葉は、我々にとって忘れられない、最高の賛辞であった。
『火の山』
昭和４６年、音楽部はＮコンで全国第２位（優秀校）だった。
その年のクリスマスに、NHKテレビが企画した目黒高校音楽部のための単独番組に出演した時の１曲である。音楽部最後の、集大成となる演奏であった。

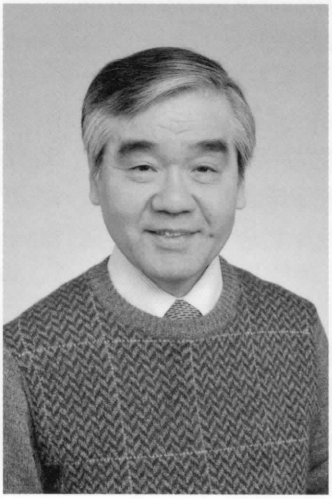


玉置清明

都立目黒高校卒（音楽部５期）。東京芸大声楽科卒。
小２より８年間、ＮＨＫ東京放送児童劇団員としてＴＶラジオに出演し表現の基礎を学ぶ。中学校でエレキとフォークに熱中するが、目黒高校音楽部で精神の奥深くを揺さぶる何物かの存在を知り、クラシック音楽の世界にのめり込む。神奈川県立高校の音楽教諭として学内外でオーケストラからＪＡＺＺそして絵画まで幅広い音楽・美術活動を展開し、文部科学大臣優秀教員表彰、アートアカデミージャパンなど多くの個人表彰をうける。神奈川県立教育センターオーケストラ講師、秦野市民交響楽団指揮者等を歴任。現在、秦野女声コール指揮者、秦野市文化会館事業協会理事、秦野美術協会会員。

安藤由布樹

都立駒場高校卒（駒フィル部）。東京芸大作曲科卒。
2011年度国際芸術連盟作曲賞受賞。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第１位受賞。日本作曲家協議会会員、日本合唱指揮者協会会員。神田外語大学講師。ポーランド日本友好協会日本支部長。
日本リトアニア友好協会理事。都立駒場高校在校中に、音楽の授業とクラブ活動（音楽鑑賞クラブ、および駒場フィルハーモニー）に於いて織田久男先生の教えを受け、それが現在までの音楽活動の源泉となっている。1997年「織田先生にありがとう会」にて早春の会合唱団と初めて出会い、2002年ウィーンピアノ四重奏との協演の際に初めて早春の会合唱団を指揮した。2008年に合唱指揮者協会主催による「ロマン派合唱曲の夕べ」に出演を依頼したことをきっかけに、早春の会合唱団に入団。初心に帰りつつ織田先生の指導を仰いでいる。東京芸術大学作曲科在学中より、オペラ、オペレッタ、ミュージカル、バレエなどの稽古場にて、編曲、指揮、稽古ピアニストなどを多数つとめた研鑽を現在の作曲活動に生かし、作品のほとんどが、独唱、合唱、オペラ、ミュージカルなどの声楽作品である。



井上　実

都立目黒高校卒（音楽部１期）。国立音大声楽科卒。
早春の会合唱団第２代指揮者。
現在は、児童合唱の指揮やリコーダーの指導教材を中心とした作曲・編曲を行い、教育活動に寄与している。

仲谷智子

都立目黒高校卒（音楽部6期）。武蔵野音大ピアノ科卒。
久富綏子、澤田紀子に師事。ピアノ教室主宰。早春の会合唱団創団時より伴奏を務める。市民劇でのピアノ演奏、歌の会の企画、伴奏など、在住の船橋市に於いて音楽活動を続けている。

米倉邦子

都立目黒高校卒（音楽部７期）。国立音大ピアノ科卒。
横田和子、故田中希代子、霧生トシ子の各氏に師事。
第２０回ワイマール国際音楽セミナーにて、A. ウェーバージンケ氏に、志賀国際音楽祭にてP. フォイヒトベンガー氏に師事。98 年内幸町ホールでリサイタルを開催。デュオや室内楽にも意欲的に取り組んでいる。

渡邊淑子

都立目黒高校卒（音楽部３期）。国立音大ピアノ科卒。
織田久男氏、ウラジミール・竹の内氏に師事。
卒業後、ピアノコンサート活動と後進の育成に励む。
昭和４２年度NHK合唱コンクール全国第一位の時、ピアノ伴奏を務める。

橋本弦法（はしもと　ふさのり）

都立目黒高校卒（音楽部６期）。
東京芸大声楽科卒。音楽博士（取得 東京芸大）。東京国際声楽コンクール入賞。
９年間ドイツに滞在する。滞在中は、ドイツ・オーストリアの各都市に於て演奏活動を行い、音楽放送出演、交響楽団との共演、歌劇場専属等を経る。東京インターナショナル音楽声楽アカデミー主宰。

松本久美子

都立目黒高校卒（音楽部５期）。昭和音楽短大声楽科卒。
中村健氏、橋本弦法氏に師事。
早春の会合唱団コンサートマスター・ヴォイストレーナー。

早春の会合唱団プロフィール

1993年　3月　都立目黒高校の旧音楽部の卒業生を母体として発足
　　指揮者：松田匡史　伴奏者：仲谷智子
　　10月　第39回目黒区合唱祭に参加、以降毎年参加
1994年 11月　第36回都民合唱コンクール（東京文化会館）小ホール部門第一位
1996年 10月　第38回都民合唱コンクール（東京文化会館）小ホール部門第一位
1999年　8月　指揮者：井上実
2000年　6月　第1回演奏会（こまばエミナース）
2001年　2月　指揮者：玉置清明
2002年　7月　第2回演奏会（東京文化会館小ホール）
2004年　9月　第3回演奏会（東京文化会館小ホール）
2005年　1月　新実徳英作品展に参加
2006年　9月　第4回演奏会（東京文化会館小ホール）
2007年　3月　高田三郎作品展に参加
2008年　4月　指揮者：浦尾画三
2009年　6月　指揮者：安藤由布樹
2010年　4月　指揮者：玉置清明、以降指揮者は玉置氏と安藤氏で現在に至る
2010年　7月　第66回東京都合唱祭に参加、以降毎年参加
2012年　3月　木下牧子作品展に参加
2012年　5月　第5回演奏会（東京オペラシティ リサイタルホール）
2014年　5月　第6回演奏会（めぐろパーシモンホール大ホール）